

令和7年度 学校関係者評価・第三者評価 報告書

奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

本年度の学校関係者評価・第三者評価の機会を次のように複数回設ける。

I 学校関係者評価・第三者評価 委員会（幼小中高合同）

- ① 令和7年 11月28日(金) 10:00~12:00
- ② 令和8年 2月26日(木) 9:00~10:30

II PTA 関係者による学校関係者評価委員会

- ① 令和7年 6月12日(木) 10:00~11:30 (幼小中高合同)
- ② 令和7年 11月18日(火) 10:50~12:30 (中高)

それぞれにいただいた評価を次にまとめ、報告する。

I 学校関係者評価・第三者評価委員会

I-①

1. 実施日時

令和7年11月28日(金) 10:00~12:00

2. 概要

はじめに当日の流れを確認した後、各校種の授業を参観いただき、その後、年間の取組状況について報告し、評価者よりご指導・ご助言をいただいた。

3. 評価者

前田 康二 先生(奈良教育大学 教職大学院 教授)

4. 出席者

安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、高塚小学校長、榎幼稚園園長
立花中学校教頭、吉岡事務長、三笠高等学校教頭(司会)、山川小学校教頭(記録)

5. 評価内容

① 各校種からの報告(重点取組)

※全校種の定める中期計画をもとに、重点取組について報告した。

(1) 幼稚園

・説明会・体験機会の充実等を通じて、保護者への情報提供および信頼関係の構築に努めている。加えて、未就園児とその家庭に向けた取組を継続し、園の魅力発信を強化している。

- ・基本的な生活習慣の定着や異年齢交流を通じて、社会性・協調性等の育成を図っている。
- ・マーチング、英語活動、伝統文化体験等、特色ある教育活動を展開し、表現力や感性の育成に取り組んでいる。
- ・運動面でも多様な活動を取り入れ、体力向上を図っている。
- ・教職員研修の充実、若手育成、園児の安全・安心に関わる取組(防災・配慮事項への対応等)を継続している。

(2) 小学校

- ・内部進学制度の充実とあわせて、学校説明会等を通じた情報提供を継続し、広報活動の質的向上を図っている。
- ・学習面では、表現力や論理的思考力の育成に重点を置き、授業改善や各種取組を進めている。
- ・異学年交流や縦割り活動等を通じて、児童同士の関わりを深め、社会性・共感力の育成に取り組んでいる。
- ・ICTの活用や個別最適な学びの工夫等、時代に即した学びの在り方を継続して検討している。

(3) 中学校・高等学校

- ・募集・広報活動の充実を図り、受験生・保護者に対する情報提供の機会を確保している。
- ・授業改善・教員研修の取組として、授業交流や研究授業等を実施し、指導力向上を図っている。
- ・学習支援の取組を継続し、生徒の学習習慣の形成や学力向上につながる支援体制の充実を図っている。
- ・進路指導や大学等との連携を通じて、生徒の学習意欲・進路意識の向上を支援している。
- ・探究学習では、連携活動や自由テーマでの探究等を通じて、思考力・協働力・コミュニケーション力等の育成に取り組んでいる。
- ・幼・小・中・高の学びの系統性や発達の連続性を踏まえ、ルートマップの見直し等、教育課程の改善を進めている。

② 授業参観による所見

- ・いずれの校種においても、教師と子ども、子ども同士の関係性が良好で、安心して学べる学習環境が形成されていることが印象的であった。
- ・幼稚園では、年齢発達に応じた活動が丁寧に組み立てられ、体験を通じた学びが展開されていた。
- ・小学校では、教員と児童の双方向的なやり取りや、児童同士の意見交流が活発であった。
- ・中学校では、ICTを活用しつつ、表現活動・発表活動と教員のフィードバックが効果的に組み合わせられていた。
- ・全体として、ICT活用に偏りすぎず、「対話」や「つながり」を重視した教育が実践されている点を確認された。

③ 各校種の取組に関する助言(要旨)

- ・12年間一貫教育の連携をさらに強化し、各段階の学びの接続をより具体的に示すことが望まれる。
- ・授業を第三者に参観してもらい助言を得る機会を継続的に確保することで、授業改善と教員の指導力向上につながる。
- ・各校において「学び」「体験」「生活」「社会との関係」をキーワードとした教育活動の質的向上と体系化を進めることが今後の課題である。

④ その他

今回は、令和8年3月5日(木)に、1年間の教育活動についてご意見をいただく方向で調整した。

→令和8年2月26日(木)に変更。

I-②

1. 実施日時

令和8年2月26日(木) 9:00~10:30

2. 概要

各校種から令和7年度の総括の報告を行い、その後、各校種の総括についてのご指導をいただいた。

3. 評価者

前田 康二 (奈良教育大学 教職大学院 教授)

4. 出席者:

安井教育総括監、兼中学校・高等学校長、高塚小学校長、槇幼稚園園長

立花中学校教頭、吉岡事務長、三笠高等学校教頭(司会)、山川小学校教頭(記録)

4. 評価内容

①各校種(幼稚園、小学校、中学校・高等学校)からの報告

全校種の年度末分掌・委員会総括表をもとに今年度の取り組みや次年度に向けての課題を報告する。

幼 稚 園

【教務部】

・園内研究保育や各種研修を計画的に実施し、教職員の資質向上に努めた。外部研修の成果共有も進めた。

・小・中・高と連携し、カリキュラムルートマップを改訂。学びの連続性の検証を進めている。

・大学との共同研究を通して自然体験活動等を実施し、教育内容の充実を図った。

・幼小連携を強化し、円滑な進学につながる取組を推進した。内部進学において一定の成果が見られた。

・預かり保育の利用増加に対応し、内容や体制の充実を図った。

【総務部】

・絵本環境の整備を進め、日常保育における活用を促進した。

【保健部】

・基本的な生活習慣の定着に向けた指導を継続。保護者との連携体制を整えた。

【給食委員会】

・残食状況の把握と情報共有を行い、献立改善につなげた。

【広報部】

・体験入園や未就園児向け活動を充実させた。

・SNS や動画等の活用により情報発信方法の多様化を図った。

小 学 校

【教務部】

・内部進学対応等に関する業務の標準化を進め、指導体制の安定化を図った。

【生徒指導部】

- ・登下校班活動の充実により安全意識向上を図った。
- ・児童主体のルールづくりの機会を設け、自律的な規範意識の育成に努めた。
- ・公共マナーの継続的指導を課題とする。

【総務部】

- ・修了式の在り方を見直し、学年の成長を祝う温かな式として午前中開催へ変更した。
- ・中高との行事連携を推進した。

【研究研修部】

- ・全教員が研究授業を実施。夏季研修も実施した。
- ・次年度は外部講師を招いた専門研修を計画している。

【保健部】

- ・食育活動や残食調査等を実施し、食への関心向上を図った。

【広報部】

- ・説明会・体験行事を継続実施。デジタル広告や SNS 活用により認知度向上を図った。

【情報管理】

- ・生成 AI や ICT 活用に関する研修を実施。
- ・情報モラル・デジタルシティズンシップ教育の充実を進めている。

【総合(ユネスコ)】

- ・宿泊学習を軸に平和・環境・国際理解教育を推進。
- ・非認知能力の可視化にも取り組んだ。

【総合(キャリア)】

- ・キャリアパスポートを整理し、振り返り重視の形式へ改善。
- ・縦割り活動を通じて主体性を育成。

中学校・高等学校

【教務部】

- ・新カリキュラムの改善・改訂を実施。
- ・生徒アンケート結果では学校生活充実度が高水準を示した。
- ・「尚志館」など、自学自習環境の整備を進め、利用者増加につながった。

【進路指導部】

- ・進路講演会のオンライン化など参加機会を拡充。
- ・探究活動や外部コンテスト参加を支援し、実績向上につながった。

【生徒指導部】

- ・建学の精神に基づく指導を継続し、生徒の自律的行動を促した。

【総務部】

- ・式典・行事運営の改善を進めた。
- ・読書活動推進の全校的枠組みづくりを検討。

【広報部】

- ・説明会・個別見学会を実施。志願者・受験者数は前年度を上回った。
- ・WEB 媒体による広報活動を強化。

【保健部】

- ・支援・配慮を要する生徒への情報共有体制を強化。
- ・ケース会議や大学の特別支援相談との連携を通じて支援体制を整えた。

【人権推進委員会】

- ・校外外研修を実施。人権作文集を活用して人権意識の深化を図った。

【生徒会指導部】

- ・生徒主体の企画運営を推進。異学齢交流の活性化が見られた。

【国際交流部】

- ・ターム留学参加者が増加。研修先及び研修内容の充実を検討中。

【探究学習プロジェクト】

- ・課題解決型探究を推進。課題研究の外部コンテストでの成果も見られた。

【巡回指導サポートチーム】

- ・巡回体制の強化により校内トラブル減少傾向。
- ・関係部署との定期的情報共有を実施。

【いじめ初期対応チーム】

- ・いじめアンケートと集約会議および組織的対応を継続。

②各校種の取り組みについてのご指導・ご意見等

- ・各校種とも年間総括が適切に行われている。
- ・校種間連携および研修体制は整備されている。
- ・教員研修では ICT・AI・特別支援・教科専門性に関するニーズが高い傾向がある。
- ・広報活動は「誰に何を伝えるか」という戦略的視点と、外部からの評価把握が重要である。
- ・ESD 分野での大学連携や国際的取組への参加を期待する。

■ 働き方に関する取組

働き方を独立した評価項目とはしていないが、各校で衛生委員会を実施し、産業医の助言やストレスチェックを活用するなど、教職員の健康管理体制を整備している。

③その他

来年度も前田先生に学校関係者評価・第三者評価委員会の委員としてご意見をいただける調整した。

II PTA 関係者による学校関係者評価委員会

II-①

1. 実施日時

令和7年6月12日 10:30～12:00

2. 開催場所 育友会館

3. 参加者

評価者名 川口優加子（登翔会会長）、水木真由子（高等学校副会長）、森脇珠里（中学校副会長）
佐々木雅代（小学校副会長）、大竹由里恵（幼稚園副会長）
藤村遼子・有光陽子（会計）、上田智里・荒木冴子（書記）

学校園参加者

安井幸至（教育総括監兼中高校長）、高塚佳紀（小校長）、槇 康二（幼稚園長）、
三笥康之（高等学校教頭）、立花正幸（中学校教頭）、山川丈二（小学校教頭）
日比忍（小学校教頭）吉岡伸幸（事務長）

4. 協議内容

- ① 校長より登翔会本部役員へ学校関係者評価委員の委嘱を行う。
- ② 今年度の各校園の中期計画をもとに、学校経営方針・重点目標・核となる取り組みについて説明し、令和6年度学校自己評価書に基づいて、取組と成果、改善方策等を説明する。
（資料 別紙） 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校 中期計画
奈良学園小学校中期計画
奈良学園幼稚園中期計画
- ③ 2学期には、実際の教育活動も点検していただき、ご意見をいただきたい旨お伝えする。
3学期には、一年の取り組み状況を説明し、ご意見をいただき、次年度に繋ぎたい旨お伝えする。
- ④ 質疑応答・意見交換
質問①男子用の半袖に羽織れる夏用のカーディガンの進捗状況について教えてほしい。
→現在、男子用の半袖に羽織れる夏用のカーディガンについては生地も含め検討を進めている。
質問②幼稚園の教育実習について、奈良学園大学以外の教育実習生も受け入れ可能なのか。
→時期、人数によってお断りすることがあるが、他大学からの教育実習生も受け入れている。
質問③小学校高学年の算数の宿題について難易度が高い問題が出題されている。保護者の助けがないと解けない児童も多くいると思うので検討をお願いしたい。
→宿題については、教科部会を通じて、学年に応じた内容や分量、難易度等も検討していく。また、宿題等で解けない場合にはヒントの提示や翌日の解説など丁寧な対応を心がけていく。
質問④宿題の適正な分量と通塾の必要性について教えてほしい。
→宿題の分量については、児童の実態に合わせながら適切な分量と内容を学年ごとに調

整して出している。また、塾については、他の習い事と一緒に児童自身が通塾したいのであれば止めるものではないが、通塾しなくても小学校の授業を大切にしていけば、中学校・高等学校に進学してからも上位の成績を収めている児童は多数いる。

質問⑤幼稚園での防犯面で取り組んでいることを教えてください。

→施錠面においては、チェーンのロックを使用するなど工夫をしている。防犯研修等は、ここ数年行えていないので、今年度中に担当者と検討していきたい。

質問⑥幼稚園の在園児ではない保護者が専用駐車場を利用している状況があるようだが、施錠の状況はどうなっているのか。また、ルールを守らず自家用車で送迎している保護者がいるようなので周知してほしい。

→施錠の状況は、毎年新しいナンバーを設定し、安心でんしょばとにて、在園時の保護者にお知らせしている。在園児でない保護者が専用駐車場を利用している状況については、確認次第指導を行う。また、自家用車の送迎マナーについては、年度当初に配付する「登下校時の自家用車による児童・生徒送迎の自粛について（お願い）」等の啓発文章を活用し周知徹底していく。

意見①高校生の自転車通学の際のヘルメットの着用の徹底をお願いしたい。

→ヘルメットをかぶることは「生徒心得」にもあるように、自転車通学の条件になっているので、指導の徹底をはかっていく。

意見②小学校での紺色ソックスと白ソックスの使い分けについて、明確にしてほしい。

→生活のしおりに「R7年度より、通学時の紺の靴下は履き替えなくてもよいものとする。合同運動会などの行事の際は、白色無地の靴下の着用を指定することがある。」と記載があるがどの行事で白色無地なのかあいまいな部分があるため、明確に示したうえで児童・保護者へ周知していく。

意見③中学校・高等学校での椅子の高さについて、成長段階にあるので椅子の高さを変えられるものにしてほしい。

→学年があがるにつれて、机・椅子のサイズは変更されていくので確認して対応する。姿勢保持は学習においても大切なことなので、予算を考慮しながらであるが、入れ替え時期には、サイズを変更できるタイプのものに変えていきたい。

II-②

1. 日 時：令和7年11月18日（火） 10：50～12：30

2. 場所：サイエンスラボ、授業参観学年フロア（M4 学年、Y3 学年）

3. 評価者：《登翔会本部役員》 ※敬称略

（会長）川口優加子、（高等学校副会長）水木真由子、（高等学校会計）藤村遼子、

（中学校副会長）森脇珠里、（中学校会計）有光陽子

4. 出席者：安井教育総括監兼中学校・高等学校長、三笥高等学校教頭（司会）、立花中学校教頭（記録）

《配付資料》

- ・学校経営スローガン：子どもの「伸び率」日本一を目指す [校長作成]
- ・力行カード（学習の基本・大学入試に向けて） [進路指導部作成]
- ・M4 授業（国語）参観用教材プリント [授業担当者作成]

5. 議事録

①授業参観

10：55～11：15 M4 国語（長野教諭）

11：15～11：25 Y3 生物（岡本教諭）

11：25～11：35 Y3 物理（西野教諭）

②校長挨拶（11：40～11：55）

- ・先週（11/13木）実施のふれあい清掃についてありがとうございました。生徒たちも大学生と一緒に楽しく清掃していました。
近隣の商業施設では、トヨタ販売店のみなさまも一緒に清掃していただいていた。
- ・先週は、広報活動で最も大きなイベントである中学入試プレテストを11/15（土）に実施しました。奈良学園小学校の児童を除くと427名の受験者があった。過去、最多に近い人数であった。
国語、算数の2教科で、今週11/22（土）に返却解説会を実施する。その日の午後、3回目の入試説明会・学校見学会を行う。奈良学園小学校の児童には、来週にプレテストの解説会を行う。
- ・生徒は来週が期末考査一週間前になる。考査に向けての準備をしていくことになる。
- ・Y4 学年では、推薦入試の可否結果も出始めている。これらの結果を受けて1月の共通テスト本番に向かっていく。

（授業参観感想）

- ・（M4 国語について）
さすが国語の授業だなと思いました。先生の声も明瞭で、説明文をどういう風に読み解くかという構造の説明を説明されていた。ロイロの効果的な使い方を見せていただきよかったですと思います。長野先生は、子どもが幼稚園入園試験のときからお世話になった先生であった。長く勤めていただいている先生をこのような形で拝見させていただけることは大変うれしいことです。教科書とロイロを使ってテンポのよい授業であった。
- ・（Y3 生物について）
質の高い授業だと思う。物理もそうです。子どもが先生に生物を教えていただき予備校に行かずに奈良登美ヶ丘の授業一本で受験に挑み第一志望に合格した子どもが多くいます。物理も同様でして先生の授業一本で受験できた。問題演習にも時間をとっていただけた。学校の教育目標である「科学的に物事を見る力」を身につける、さすがの理科教育と思う。全校種の親の期待するところと思う。進路講演会では、理科の選択について、物理を選択することを勧められるが、生物を選択している生徒も多かった。分かり易いからかと思う。
- ・（Y3 物理について）
プリントと映像を使ってのわかりやすい説明であった。想像しやすい授業であった。私たちが学んだ

頃の授業とは違う。このような授業を受けていたらもっと勉強好きになってと思う。

・(校長から)

デジタル学習とアナログ学習のバランスが大切だ。説明や教材提示はデジタルが有効だが、書くこと、読むことや対話することはデジタルだけでは補えず、アナログ学習が不可欠。特にM段階では大切。授業内容とその組み立てがしっかりしていないと ICT 機器を有効に取り入れた授業にはならない。本日の授業はそういう観点でもいい授業だと思う。

③学校評価委員会(11:55~12:45)

今年度の重点取り組みと進捗状況について

【学校経営スローガンについて】

「子どもの『伸び率』日本一を目指す」が内外ともに生徒や教員に浸透しているし大事にしたい。数値で表すことのできる試験の点数は大事な視点ですが、数値で表すことのできない非認知能力、主体性であったりやる気であったり自分自身を律する力、忍耐力、自制心、乗り越える力(レジレンス)などが、好きなことを追求する探究力であったり友達と協働する力、表現する力そういう非認知能力が学力など数値で表すことができる力の向上の支えになると思いますし、将来、仕事に就くとき人間関係を円滑にするためには必要不可欠な力だろうと思います。そういう力を養うためには、小さな成功体験を積み上げていき、少しずつ難しいことに挑戦することでそういう力が強化されていくと思う。われわれは寄り添いながら正しく評価する、そうすることによって子どもたちが自分にもできるという思いをM段階で表現してくれることによって潜在能力、自分でも気づいていない能力に気づいてくれる。そこに気がつく子どもたちも火がついて自走してくれる。そういう習慣づけをしないと難関大学へは届かない。そういう習慣をM段階で付けてほしいという意味をこめての「伸び率日本一」ということです。

【本校で育む力について】

最終は大学受験になってくる。大学受験に必要な総合的な力、いろいろな行事また取り組み、いろんなイベントがありますが最終的には大学受験、そこに繋がって集約されるものだと思っています。

今年の卒業生で大学に現役でいったのは8割くらいです。現役志向が強く早く決めたい、近くの学校で通えるところという傾向が強くなっている。8割の大学進学者の4人に1人くらいが国公立大学という結果に今年はなっている。131人が卒業しましたが、のべて121人が関関同立に合格している。近大も70人くらいが合格している。進学者の数でいくと国公立プラス関関同立プラス早慶GMARCHでいたい2/3(約63%)くらいが合格している。この率を上げることが至上命題である。医学部医学科や旧帝大一工神にも挑戦していただきたい。勿論、Ⅱ類からも国公立大学や関関同立に合格している。Ⅰ類だからⅡ類だからということだけでなく自分の今の力に応じた内容、力に応じた授業展開で、指導していきたい。

【大学探訪について】

11月1日に京都大学、大阪大学にいきました。Y1Y2段階で早くからあこがれを持つ、現場の大学を体験していただいてそれが目標になって目標が実現してそれぞれ30くらいの生徒が参加した。OB、OG

が京都大学では13名、大阪大学では5、6、来てくれました。京都大学では模擬授業をしていただきました。大阪大学では、研究施設や最先端の技術などを見せていただいた。

【尚志館について】

120～130名くらいの生徒が登録している。中学生は19時まで高校生は20時まで残ることができる。中学生は試験前にはたくさん残って勉強している。

【探究力】

問題解決型の探究として医学部の学生とコラボしてのInochi Gakusei Innovators' Programがあります。国公立大学の医学部の学生とコラボして、そのプログラムが出す医療系の課題の解決策を競うコンテストです。今年はYIの4人のグループが出場して関西大会で3位に入りました。高校生のグループが多い中で3位になりました。

【国際理解について】

オーストラリア語学研修、ターム留学、昨年からはシンガポールリーダー研修がスタートしました。シンガポールリーダー研修については、今年は参加希望者が少なく今年度は見合わせるようになった。GCPでは、ネイティブ講師が出題する課題について英語で議論して英語でまとめて英語で発表する。Chromebookでまとめたシートを作成し発表する。ELST (English listening and speaking test)では、自分の発音、発話を自分でマイクを通して保存したものをAIが瞬時に採点してくれる。英検の2次対策にも利用できる。

【部活動の振興について】

正門前にパネルを登翔会様のご協力ですてさせている。近畿大会、全国大会に出場したクラブということではありますが、先輩後輩の良好な人間関係の中で目標を一つにして切磋琢磨するということ、それは中高時代にしかできないこと大事なことということで応援しに行ったり鑑賞させていただいたりしながら進めている。

【いじめ初期対応チーム、巡回指導サポートチーム】

安全・安心ということでは、いじめ初期対応チームがある。毎年2回のいじめアンケートを実施している。いじめられた・いじめたことは勿論ですが、見た・聞いたというところまできちんと1つ1つの事象について事実確認をする、さらに必要に応じて保護者とのやり取りをし、あくまでもいじめられたという生徒の立場になって最後まで守り切るということを主眼として取り組んでいる。いろいろな事象があります。なかなか一筋縄ではいかない状況もありますが、慎重に対応している。

【力行カードについて】

今年から進路指導部で作成した力行カードというものです。学習の最低限の基本を提示している。先生方によって指導の仕方に多少、差が出てくる。それが生徒にとって不利にならないよう最低限の共通見解を徹底することで全体の学力向上につなげていく。基本的な勉強の仕方を提示して教員も指

導の基本として共有していく。特に勉強のやり方ということではM3M4できちんと固めていくことが大切です。裏面は大学入試に向けてのもので、Y学年向けです。進路は最終的には自分で判断していく、主体的に調べていくものであう。メッセージも込めてベースになるものを提示してある。

※委員からの質問や意見は出なかった。

質疑応答（主なご意見）

■ いじめへの対応について

部活動において問題が生じた際、顧問のみで対応するのではなく、学校として組織的に対応する体制について質問があった。また、相談しやすい窓口や巡回指導の体制について確認があった。これに対し、学校からは、学年の課題については担任を中心に組織的に対応していること、部活動においても顧問が一人で抱え込むことのないよう、生徒指導や教育支援の担当教員と情報共有しながら対応していく方針であることが説明された。

また、生徒が相談する際は担任や顧問に限らず、話しやすい教員に相談してほしいこと、内容に応じて学校全体で対応を判断していく体制であることが示された。

巡回指導については、生徒指導部や教育支援担当教員などが連携して校内を巡回しており、生徒の様子を日常的に把握しながら支援を行う取組であることが説明された。巡回は監視を目的としたものではなく、生徒が気軽に相談できる関係づくりの一環として行っているものである。

■ 心身の健康・学習環境について

自習室として使用している教室の空調設備や、尚志館での自習時の軽食・飲み物の提供について意見があった。これに対し、学校からは、自習室として利用の多い教室については空調環境の整備を検討すること、また自動販売機での温かい飲み物の提供などについても検討していく旨の説明があった。軽食の提供については、安全面や運営面を含めて検討が必要であるとの回答があった。

■ 危機管理体制について

大学側の通用門付近から部外者が敷地内に入る事例があったことから、安全対策の強化について意見があった。これに対し、学校からは、学園としても常任理事会で対応を検討しており、門の管理方法や学生への指導を含め、今後の対策について大学当局へ要望することが説明された。

■ 学校行事について

合同運動会のDVD販売について案内がなかったとの意見があり、撮影が難しい保護者のためにも販売を希望する声があった。これに対し、学校からは業者による撮影が行われており、販売に向けて準備を進めている旨の説明があった。

また、海外語学研修における写真掲載の偏りについて確認の要望があり、学校で状況を確認することとなった。

■ 情報機器（Chromebook）の使用について

Chromebook の利用制限時間について質問があり、夜間の利用制限によって課題に取り組みにくい場合があるのではないかとの意見があった。これに対し、学校からは、夜間は十分な睡眠を確保することを重視した設定としていることを説明し、家庭での利用時間については各家庭でも適切に管理していただきたいとの考えが示された。

■ 進路指導について

進路講演会について、より具体的な進路別（国公立大学・私立大学・医学部など）の情報提供を望む意見があった。これに対し、学校からは、進路指導部を中心に最新の入試情報を収集し、各志望に応じた内容を含めた説明を行っていることが説明された。また、医学部志望者向けには専門予備校と連携した講演会なども実施していることが紹介された。

【資料】学校経営スローガン:子どもの「伸び率」日本一を目指す（校長作成）